



佐川美術館「アートコラム」74

# Black Rock「黒い巖茶碗」

佐川美術館  
 学芸員 松山早紀子



現在、樂吉左衛門館では、巖のような黒い樂茶碗と墨画を展覧しています。

樂吉左衛門館では、平成21年から毎年「吉左衛門X」というシリーズで、樂直入(十五代 樂吉左衛門)と思惟を共有する作家、あるいは事象とのコラボレーション展を開催してきました。今年度は、江戸時代後期に活躍した文人画家、琴士として知られる浦上玉堂(1745-1820)の墨画とのコラボレーション展です。

玉堂の影響を受けて制作された樂茶碗の特徴の一つは「手捏ねによる原形を作る工程で、手びねりの紐造りを取り込んだ技法」。もう一つは「櫛目状の篋による櫛削り、横斜めに走る櫛目状の溝・篋跡」。後者は構造そのものをあえる意味なき倒してゆく風、嵐のようなものであると作家自身が語っていますが、いずれも直入が玉堂を見つめる中で、玉堂の世界に深く入り込んで制作した新作樂茶碗です。

胎土(茶碗を制作する際に使用された土)には、樂家に代々伝わる樂家の土や聚染土ではなく、薬師寺東塔の基壇の土を使用しています。釉薬は、泥鴨(京都の加茂川の砕石くず)、南アフリカのナミビア土、コバルト、クロムなどを使用しています。

リズムカルな筆致と繊細な渴筆とを駆使した玉堂作品と、新たな直入の表現がうかがえる樂茶碗の数々を、ぜひご鑑賞ください。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話[(585)7800]でお問い合わせください。

いっだって好奇心

みんなの読書活動

手を伸ばせばそこに本

## 地域の小さな図書館「子ども文庫」

市内には15カ所の「子ども文庫」があります。子どもたちが本を手取る機会を作るために、地域のボランティアや自治会が運営しています。

### ボランティアさんに話を伺いました

図書館へ行かなくても本が借りられるだけでなく、子どもたちが顔を覚えてくれて、地域交流の拠点にもなっています。「子ども文庫」をより楽しんでもらうために、各文庫では手作りの参加スタンプや貸出ノートなどを作ったり、図書館司書におはなし会に来てもらったりと、工夫しています。

「子ども文庫」を楽しみにしてくれる利用者の「図書館が遠くて行きづらいので助かっている」「地域で子どもたちを見守ってもらえる環境ありがたい」「おかげで子どもが本を大好きになっている」「地域の大人も子どももみんな顔見知りになって、子どもたちが年齢関係なく仲良くなれる」など、さまざまな喜びの声が励みになっています。

※子ども文庫：自治会などが図書館の本を団体貸出で借り、地域の子どもたちに貸出する活動



本市は「読書日本一のまちづくり」をめざしています。 岡市立図書館 ☎・☎(583)1639 FAX(583)6949